

## ブカレストでのひと月

校長 清水 哲也

ブカレスト日本人学校に赴任して一か月余りが過ぎました。まだまだ分からないことや不安なことが多い中で、食生活をはじめとして何とか生活が軌道にのって来たように思います。それにしても雨をほとんど見ることがなく青空のもとで気持ちよく毎日を過ごし、「こんなに明るいのもう8時？」というサマータイムの効果を目の当たりにした一か月でした。街で買い物したりヘラストラウ公園内を散歩したりする中で、ルーマニアの人々の生活ぶりや余暇の楽しみ方などが少しずつわかって来たように思います。

先日、全校写生会で近くの動物園へ歩いて出かけました。園内をひととおり見学した後、それぞれが選んだ写生対象は、ウサギ、ペリカン、ワニ、トカゲなど様々でした。ターゲットの動物を見つめ、その特徴をとらえようとする真剣なまなざしに、普段とは違う一面を見ることができました。



昼食後はみんなでレクリエーションを行い和やかに過ごしました。小学校2年生から中学校3年生まで大きな年齢の違いはあるものの、小学生は中学生を慕い、6年生や中学生はお兄さん、お姉さんとして優しく下級生の面倒をみている姿に感心しています。まさに家族のような集団ですが、数十年前、兄弟姉妹の数が多かった日本の家庭はこのような感じだったのかなと勝手に想像しています。



園内の動物を見て回る中でオスとメスのつがいのライオンが仲良さそうに過ごしている場面に出会いました。百獣の王ライオンがまるで飼い猫のように互いにじゃれ合いのんびりと暮らしています。途中で、動物にとって最大の弱点と思われるお腹を上に向けひっくり返った様子はとても興味深く思えました。



危険なことは何一つなく食べ物にも不自由しないこの動物園の環境を、様々な困難を乗り越えて生きていかなければならないサバンナの環境と比べてライオンはどう感じているか聞いてみたい衝動にかられました。

現在、子供たちは19日(土)の運動会に向けて、毎日、リレーなどの出場種目やソーラン踊りの練習に励んでいます。人数は少ないながらも3人のチームで協力し、中学生はリーダーシップを発揮しています。当日は躍動する子供たちの姿をご覧いただき、応援くださるようお願いいたします。